

研究ノート

NASAD のアクレディテーションシステムの特色

—わが国の認証評価制度改善への示唆—

山口 豪

(デジタルハリウッド大学)

本稿の目的は、National Association of Schools of Art and Design (NASAD) におけるアクレディテーションシステムの特色を考察し、わが国の認証評価制度改善への示唆を導くことにある。

本稿では、第1に近年のわが国の大学を取り巻く環境を概観し、第2にNASADのアクレディテーションシステムに関する先行研究をレビューする。そして、第3にNASADにおけるアクレディテーションシステムの特色を分析し、特にNASADのコンピテンシー・ベースの評価基準、選択可能なセルフスタディ方式、及び機関別と分野別のジョイント・エバリュエーション手法に焦点を当てて考察する。最後に上記の考察を踏まえて、将来のわが国の認証評価制度改善の方向性を提示する。

キーワード：NASAD、コンピテンシー・ベースの評価基準、選択可能なセルフスタディレポート、ジョイント・エバリュエーション、専門分野別アクレディテーション

1. 本稿の目的

わが国において、近年、第三者による専門分野別評価を実施する意義が高まっている。例えば、2002年に中央教育審議会は「大学の質の保証に係る新たなシステムの構築について(答申)」の中で、「大学の専門性を様々な分野ごとに評価する、いわゆる専門分野別第三者評価についても、例えば日本技術者教育認定機構(JABEE)が行っているように、将来的には多様な分野で行われることが必要である。」との指摘を行い、その後の2005年に中央教育審議会は「我が国の高等教育の将来像(答申)」の中で、「事後評価に関しては、社会的要請を踏まえれば、機関別評価と専門職大学院評価のみでなく分野別評価についても積極的に採り入れられることが期待される。その際、分野の特性に応じて学協会等関係団体の参画・協力を得ることが考えられる。」との提言を示している。さらに、2016年に中央教育審議会は「個人の能力と可能性を開花させ、全員参加による課題解決社会を実現するための教育の多様化と質保証の在り方について(答申)」の中で、「専門職大学」を制度化するよう求め、その認証評価に関しては、「分野別質保証の観点からの評価を採り入れること、新たな機関のみを設置する場合は機関別評価と分野別評価を一体的に行ったり、新たな機関を併設する場合は、機関別評価は大学全体として行い、新たな機関については分野別評価を中心に行ったりして効率化を図る

こと等を含め、効果的な評価の導入を図る。」という質保証の仕組みを提唱している。

近年こうしたわが国における高等教育の分野別質保証に向けた取組みの一層の推進が求められている中で、わが国では、工学、薬学、歯学、医学、看護学、獣医学などの専門分野別評価が進んでいる。また、日本学術会議では、既に数多くの学問分野で大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準が英国QAA(The Quality Assurance Agency for Higher Education)による分野別参照基準などを参考にして策定・公表されている¹。

上記のような動きの中で、芸術学及びデザイン学の分野別質保証に関するわが国の取組みは、日本学術会議が対象としていない学問分野であることなどから、他の学問分野と比較して遅れている。このような状況に鑑み、今後わが国で、芸術学及びデザイン学の分野別質保証の取組みを推し進めていく必要があると考える。

本稿では、その第一歩として、わが国の芸術学及びデザイン学分野の学部・学科などを設置している又はこれから同学部・学科などを設置する高等教育機関(以下、「アート&デザイン系高等教育機関」)の分野別質保証に資するべく、全米のアート&デザイン分野の教育機関に対する専門分野別アクレディテーションを担う唯一の団体であるNational Association of Schools of Art and Design(NASAD)のアクレディテーションの取組みを考察する²。

この取組みを考察したのは、今後わが国で上記の分野別質保証のあり方を検討する際に、この取組みが1つの重要かつ有益な先進事例になると考えたからである。

そして、その考察からNASADのアクレディテーションシステムの特色を導き、アート&デザイン系高等教育機関の分野別質保証をより一層推進するために、今後わが国の認証評価制度をどのように改善していくべきなのかという問題について、同制度の改善の方向性を考究する。とりわけ、本稿では、NASADの事例が、わが国の認証評価制度改善に向けてどのような示唆を与えていると考えられるかという点について、①評価基準、②評価プロセス、③評価手法の3点に焦点を当てて論究することを本稿の目的と位置付けて、以下で詳しく述べる。

2. 先行研究のレビュー

NASADのアクレディテーションシステムに関する先行研究について、以下の2つの観点から整理する。

第1はNASADのアクレディテーションシステム全般を考察した研究である。まず海外におけるファッション系高等教育機関に係る評価機関のアクレディテーションの実態調査として、NASADのアクレディテーションシステムの概要を紹介し、わが国のファッション・ビジネス系専門職大学院認証評価制度への政策含意を導いたものとして、日本高等教育評価機構(2007)がある。次にコンテンツ分野という分析視角から、日米の大学評価システムの比較考察を行った上で、NASADのアクレディテーションシステムや評価基準の概要を紹介し、コンテンツ分野の認証評価団体設立の必要性や評価基準の早急な作成を提唱した研究である高橋(2011)がある。さらに日米の大学評価制度の比較考察を行った上で、分野別質保証の観点から、NASADのアクレディテーションシステム及び評価基準の特徴を考察し、今後コンテンツ分野の質保証を進めていくために、コンテンツ教育学会が果たすべき役割を論じた山口(2017)がある。

第2はNASADのアクレディテーションを受審した大学について考察した研究である。まずSchool of Visual Arts(スクール・オブ・ビジュアル・アーツ)、FIT:Fashion Institute of Technology(ファッション・インスティテュート・オブ・テクノロジー)、及びPratt Institute(プラット・インスティテュート)の質保証システムの概略を紹介すると共に、評価受審大学の視点からNASADのアクレディテーションシステムを考察した日本高等教育評価機構(2007)がある。次にNASADのアクレディテーションを受審した大学のプログラムレビューに関する研究としては、カルフォルニア州立大学ノースリッジ校におけるプログラムレビューの一部を紹介した未来工学研究所(2009)の事例報告がある。ここでは、

同校の5年サイクルで実施されているプログラムレビューのプロセスや手続きの概略がインタビュー調査をもとに整理されている(未来工学研究所, 2009, p. 100)。さらにコンテンツ分野の質保証を今後推進していく観点に立ち、未来工学研究所(2009)や大学基準協会(2015)を参考に、NASADのアクレディテーションを受審した大学で行われているようなプログラムレビューをわが国の大学でも実施していく必要性を強調した山口(2017)がある。

以上のレビューから、NASADのアクレディテーションシステムに関する先行研究について、その概略やその一部を紹介したものはあるものの、アート&デザイン系高等教育機関の参考に供すべくその内容の詳細を考察したものは、管見の限り存在しないことが分かる。

こうした先行研究の中で、本稿は、日本高等教育評価機構(2007)、高橋(2011)、及び山口(2017)の研究内容をベースに、NASADのウェブサイトなどに掲載されている情報をもとに、最新の動向をフォローしながら、より詳しい内容の考察を行い、これらの研究内容をより進めたものとして位置付けることができる。

本稿とこれらの先行研究との大きな違いは以下3点にある。第1に今後わが国で芸術学及びデザイン学に関する分野別の評価基準を策定するにあたっては、コンピテンシー・ベースの観点の基準を盛り込むと共に、専門的側面の他に、教養的側面も加味しながら基準を設定する必要があるという提案を本稿で行っている点である。

第2にNASADの評価プロセスの特色を考察し、今後アート&デザイン系高等教育機関の機能別分化をより一層促進させる観点から、同機関の特性に応じた選択可能な自己点検・評価方式を、認証評価機関が複数用意する必要があることを本稿で提案している点である。

第3に機関別と専門分野別の認証評価の効率化のために、両者を同時に実施するジョイント・エバリュエーションの手法をわが国でも採用すべきであることを本稿で提案している点である。

このような具体的提案をわが国に対して行った先行研究は、管見の限り見受けられないことから、本稿は一定の新規性・独自性があると考えられる。

3. NASADの概要

1944年に設立されたNASADは、約352の適格認定された機関のメンバーで構成された組織である。この組織は、アート&デザイン分野及びアート/デザインに関連する分野の学部・大学院の学位とその他の資格に関する全米規模の基準を確立し、芸術、学術、教育、及びその他のアート/デザイン関連の取組みに携わっている機関や個人への

支援を提供している³。

この組織には、表1のとおり、専門分野別に、①音楽、②アート&デザイン、③演劇、④ダンスの4つの部門がある。また、これらの組織は、オフィスビルとスタッフを共有している。この組織の中で、NASADは、設立年が2番目に古く、会員数が2番目に多い。

NASADのメンバーは、現在、米国のすべての地域からのフリー・スタンディング (free-standing) のアート&デザイン分野のスクール又は大学、大学のアート/デザイン学部、及びアーティストとデザイナーで構成されている。NASADは、アート&デザイン分野における教育に関する基準の開発について日々増大する責任を負い、全米のアート&デザイン分野のスクールの間に存在する相互理解と尊重の精神の涵養に貢献している⁴。

表1 NASADを含む4つの専門分野団体の概要

名称	分野	設立年	加盟機関
National Association of Schools of Music (NASM)	音楽	1924	約 650
National Association of Schools of Art and Design (NASAD)	アート&デザイン	1944	約 352
National Association of Schools of Theatre (NAST)	演劇	1965	約 187
National Association of Schools of Dance (NASD)	ダンス	1981	約 82

出所) 上記4団体のHPをもとに筆者作成

NASADは、アートとデザインに関連する芸術系の大学(大学院)、その他の芸術プログラム資格認定校のアクセレディテーションを行っている(日本高等教育評価機構, 2007, p. 120)。新規加入の機関は、最初は5年後に、その後は10年サイクルでNASADのアクセレディテーションを受審することとなり、新規加入の際は、新規登録申請料500ドルが必要となる。また、サイトビジットに要する費用について、大学院プログラムを持つ機関は400ドルが、それ以外の機関は300ドルが、それぞれ必要となり、評価者のサイトビジットにかかる経費もその機関が負担する⁵。

NASADの会費は、フルタイム相当の学生数(FTE (full-time equivalent) students)に応じて調整され、毎年7月1日にNASADから大学に対して請求する⁶。このようにアクセレディテーションの際の費用と年間の会費は、会員である機関が負担する。

なお、NASADは、会員校に対して表2に示したような様々なサービスを提供している。

表2 NASADにおけるメンバーシップのメリット

- NASADは、会員校に対して、以下の様々なサービスを提供する。
- ・アクセレディテーションプロセスを通じた建設的な評価
 - ・新しいカリキュラムに関する助言や相談
 - ・アート&デザイン教育に関連するトピックスの調査研究
 - ・アート&デザイン、アート、教育及び関連事項の開発に関する情報
 - ・高等教育におけるアート&デザインの包括的な実態が収められた加盟機関の年次報告書から集められたデータ
 - ・ビジュアルアーティストやデザイナーの教育のための情報や基本となる基準を含む出版物
 - ・全米のフォーラムで議論された主題、問題、機会の内容

出所) NASAD (2017) p. 8をもとに筆者作成

4. NASADのアクセレディテーションシステムの概要

4.1. NASADの評価基準

NASADの評価基準は、図1に示したような階層になっており、それらの概要を以下で述べる⁷。

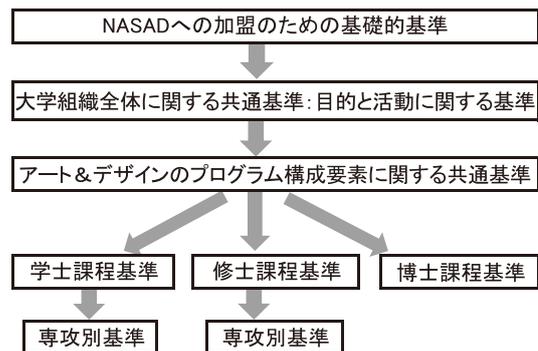


図1 NASADにおける評価基準の階層

出所) NASAD (2017-2018)をもとに筆者作成

NASADでは、新規加盟を行う機関に対して適用されるNASADへの加盟のための基礎的基準 (Basic Criteria for Membership) が定められている。例えば、学位授与機関に対するこの基準内容は、表3に示すとおり、学位プログラム、卒業生の輩出、情報公開、教員の資格、施設・設備・図書館、自己点検・評価へのコミットメント、州権限の許可、及び教育サービスの提供などの基本的な内容が定められている。

NASADの会員校になるためには、これらの基準を達成しなければならない。特に卒業生の輩出がこの基準に定められていることから、学士課程を持つ大学の場合、最低でも5年目でない、NASADへの新規加入申請を行うことはできない。

表 3 学位授与機関に対する NASAD への加盟基準の概要

<ul style="list-style-type: none"> ・ビジュアルアートやデザインに関する学位プログラムを持っている ・卒業生を送り出している ・機関の法的権限、入学者の受入れ方針、授業料やその他の関連費用、教員情報が公表資料に明示されている ・教員は特定の教育プログラムを教授するに足る教育上のバックグラウンド又は専門的経験を有している ・機関は教育プログラムの必要性に見合った施設・設備、図書館のスペースやリソースを備えている ・機関は継続的な自己点検・評価を行うコミットメントを示している ・機関は州から教育プログラムを提供する権限を得ている ・機関は教育プログラムをサポートするために、すべての授業や教育サービスを提供する

出所) NASAD (2017-2018) p. 54~55 をもとに筆者作成

(1) アート&デザイン分野共通の基準

1) 大学組織全体に関する共通基準

NASAD には、大学組織全体に関する共通基準として、目的と活動に関する基準 (Standards for Purposes and Operations) がある。その基準の構成を示したのが、表 4 である。

表 4 NASAD による目的と活動に関する基準の構成

A. アート&デザイン単位での使命・目的	G. 図書館、ラーニングリソース
B. 規模と範囲	H. 募集、入学歩留まり、記録管理、助言
C. 財務	I. 情報公開とウェブサイト
D. 管理運営	J. 社会貢献
E. 教員とスタッフ	K. 他の機関とのアーティキュレーション
F. 施設、設備、健康、安全	L. 評価、計画、立案

出所) NASAD (2017-2018) p. 55~72 をもとに筆者作成

NASAD における上記基準は 12 の基準に分かれており、各基準の下位に、その基準を遵守する際のガイドライン、助言及びコメント (Guidelines, Recommendations, and Comment) が設定されている。また、上記 12 基準の中で、「E. 教員とスタッフ」と「G. 図書館、ラーニングリソース」について、前者は「①資格、②数と配置、③任用、評価、昇進、④役割、⑤ ST 比、⑥授業規模、⑦卒業制作指導、⑧ファカルティー・ディベロップメント、⑨サポートスタッフ」、後者は「①全体の要件、②管理・運営、③コレクション、④司書、⑤サービス、⑥施設・設備、⑦財政」のように、さらに細かく両者の基準がそれぞれ設定されている。NASAD は、これらの基準項目について、詳細に検証して評価を行っている。

2) 教育プログラムに関する共通基準

NASAD には、アート&デザインのプログラム構成要素 (Art and Design Program Components) に関する共通基準がある。その基準の構成を示したのが、表 5 である。

表 5 NASD によるアート&デザインのプログラム構成要素に関する評価基準の構成

A. 履修単位時間数の要件 (中等後教育機関対象)	H. 遠隔教育 (遠隔教育によって提供されるプログラムが対象)
B. タスク達成のための時間、カリキュラム割合、コンピテンシー (中等後教育機関対象)	I. 各専門分野の融合 (学際プログラムを提供する機関が対象)
C. 必修・選択科目の説明形式	J. 電子メディアの専攻分野 (電子メディアに焦点を当てたプログラムが対象)
D. 個々の教育プログラムの継続性	K. コミュニティのための非学位プログラム (特定の教育効果を意図したプログラムが対象)
E. 在住・在留	※その他に「L~O」の上記基準を遵守するための指針あり
F. 新規プログラム	
G. 自主学習 (自主学習を含むプログラムが対象)	

※上記 () 内は対象となる機関又はプログラムを示す
出所) NASAD (2017-2018) p. 73~83 をもとに筆者作成

上記の基準は、単位の実質化のための定量的な基準を示した A の基準、アート&デザインのカリキュラムの構成要件を定めた B~F の基準、提供する教育プログラムの内容に応じた要件を示した G~K の基準で構成されている。また、上記基準に加えて、その他に、各教育機関が上記基準を遵守していく上での指針として、「L. カリキュラム基準適用のための内容と方法」、「M. カリキュラム基準適用のための柔軟性と革新性」、「N. カリキュラム基準適用のための質保証政策」が同基準の中に示されている。さらに、アート&デザインを専攻としない学生に対しても、一般教育科目としてのアート&デザイン分野の科目を提供することを推奨した「O. 一般教育におけるビジュアルアート」という指針も同基準の中に盛り込まれている。

(2) 学士課程、修士課程、博士課程に関する基準

NASAD には、図 1 で示したように、共通基準のもとに学士課程、修士課程、博士課程の基準が設定されている。それらの基準の構成について、以下で述べる。

表 6 NASAD の学士・修士課程に関する評価基準の構成

A. 各課程の基本的な目的と原則
B. アート&デザイン分野の教育プログラムを構成する資源
C. 学位授与の要件と手続き
D. 学生の受け入れに関する要件

出所) NASAD (2017-2018) p. 83~89, p. 137~138 から筆者作成

まず NASAD における学士課程と修士課程に関する基準は、表 6 のように、ほぼ同様の構成となっており、A~D の 4 つの基準で構成されている。

次に博士課程に関する基準の構成については、表 7 のようになっている。この基準の中で、特に「G. 教育分野

の内容 (Content Areas) について詳しくみると、①アート／デザイン の歴史・批評・理論・美学 (Art or Design History, Criticism, Theory, and Aesthetics)、②アート教育、③デザイン、④特別プログラム (Unique Programs) という4分野の教育プログラムの基準が定められている。

表7 NASADの博士課程に関する評価基準の構成

A. 目的	E. 入学者の資格要件 (デザイン分野の教育プログラムが対象)
B. 修業年限に関する要件	F. ファイナルプロジェクト
C. 博士号授与の手続き	G. 教育分野の内容
D. 入学者の資格要件 (すべての教育プログラムが対象)	

出所) NASAD (2017-2018) p. 145-147 をもとに筆者作成

(3) 専攻別基準

1) 学士課程に関する専攻別基準

NASADには、図1で示したように、アート&デザイン分野の学士課程基準のサブセットとして、以下の表8にあるような多数の領域の専攻別の評価基準が設定されている。

表8 NASADの専攻別評価基準の領域 (学士課程)

アート分野			デザイン分野
アニメーション	一般工芸	絵画	コミュニケーションデザイン
陶芸	一般美術	写真	ファッションデザイン
デジタルメディア	ガラス	版画	産業デザイン
画学	イラストレーション	彫刻	インテリアデザイン
フィルム／ビデオ制作	宝石／金属	織物／繊維	繊維デザイン
—	—	木工	—

出所) NASAD (2017-2018) p. 99-127 をもとに筆者作成

そして、その専攻別の基準は、ほぼどれも表9にあるような構成で定められている。NASADの専攻別基準で特筆すべき点は、コンピテンシー・ベースの観点の基準を盛り込むと共に、専門的側面の他に、教養的側面も加味しながら基準を設定している点である。

表9 NASADの専攻別評価基準の構成

A. カリキュラム構造 (Curricular Structure)
B. 一般教育科目履修の推奨 (Recommendations for General Studies)
C. 必要不可欠なコンピテンシ (Essential Competencies)
D. 必要不可欠な機会・経験 (Essential Opportunities and Experiences)

出所) NASAD (2017-2018) p. 99-127 をもとに筆者作成

2) 修士課程に関する専攻別基準

NASADには、図1で示したように、アート&デザイン分野の修士課程基準のサブセットとして、以下の表10にあるような領域の専攻別の評価基準が設定されている。

表10 NASADの専攻別評価基準の領域 (修士課程)

スタジオアート&デザイン	博物館学	学際分野
アートの歴史と批評	アート教育	—
デザイン学及び研究	アートセラピー	—

出所) NASAD (2017-2018) p. 138-142 をもとに筆者作成

そして、その専攻別の基準は、学士課程の専攻別基準ほどには階層化されてはいないが、概ねどの基準も①カリキュラム構造と②プログラムを受講した結果、学生がどのように能力を身に付けることができるかを示したコンピテンシー・ベースの観点の基準が盛り込まれている。

(4) 評価基準の設定・改定

NASADの評価基準の設定と改定は、会員メンバーの投票による多数決をもって決定される。また、その設定と改定の少なくとも4週間前に、すべての適格認定を受けた機関の会員メンバーに対して、パブリックコメントを行うことが定められている⁸。したがって、NASADのスタッフや理事会 (Board of Directors) などに評価基準を設定・改定する決定権はなく、その設定・改定の際には、機関の会員メンバーに基準の改定案を示し、パブリックコメントを経た上で、会員メンバーの総意によって、評価基準の設定・改定が確定する仕組みになっている。

4.2. NASADのアクレディテーションプロセスと手法

(1) NASADのアクレディテーションプロセス

NASADのアクレディテーションプロセスの概要を示したのが表11である。この表に沿って、その概要を以下で述べる。

まずNASADのアクレディテーションを受審しようとする場合、当該機関はその受審の2年前までに申請書をNASADのオフィスに提出する。

次に申請機関はサイトビジットの4週間前までに、機関のカタログと根拠資料を含めたセルフスタディレポートをNASADのオフィスと評価者に提出する。当該機関がセルフスタディレポートを作成するにあたっては、後述するように、当該機関の適性に応じて、セルフスタディレポートの3つの形式の中から選択することができる。当該機関は、このセルフスタディレポートの中で、NASADの定める基準の達成状況を報告する。

そして、サイトビジットは、表12に示すようなスケジュールとアジェンダで2-3日間かけて実施される。評価員は、セ

表 11 NASAD のアクレディテーションプロセスの概要

活動	判定委員会が4月の場合 (※判定委員会が10月の場合)
受審申請書の提出	サイトビジットの2年前まで
セルフスタディレポートの提出 (機関カタログ・根拠資料含む)	サイトビジットの4週間前まで
サイトビジットの期間	9月1日~12月1日の期間 (※1月15日~5月1日の期間)
ビクターズレポートの NASAD オフィスへの提出	サイトビジットから6週間以内
ビクターズレポートの 申請機関への提示	NASAD オフィスでの確認後
ビクターズレポートに対する オプションレスポンスの提出	3月15日まで (※9月15日まで)
NASAD の判定委員会	4月の第2~3週 (※10月の第2週)
判定委員会の結果の通知	判定委員会開催後の30日以内

出所) NASAD (2016) p. 34 をもとに筆者作成

セルフスタディレポートの記載内容が事実かどうかを確認し、2日目の午後か3日目の午前にその確認内容をまとめたビクターズレポートの作成に着手する。

表 12 サイトビジットのスケジュールの典型例

<p>準備日</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 評価チームの到着 <input type="checkbox"/> 最初の評価チームミーティング <input type="checkbox"/> 申請機関の代表者とのオリエンテーションミーティング <p>1日目</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 施設・設備及びテクノロジーのレビュー <input type="checkbox"/> インタビュー、授業参観 <input type="checkbox"/> 学生活動 (Student work) のレビュー <input type="checkbox"/> 実地調査時に用意された資料のレビュー <input type="checkbox"/> 評価チームのミーティング (レビュー、議論、プラン) <p>2日目</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> インタビュー、授業参観 <input type="checkbox"/> 学生活動 (Student work) のレビュー <input type="checkbox"/> 実地調査時に用意された資料のレビュー <input type="checkbox"/> 評価チームミーティング (発見内容のレビュー、合意点の確認、学長や学部長などの執行部との最終面談 (Exit Interviews) 準備) <p>2日目の午後又は3日目の午前</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> ビクターズレポートの骨子の作成 <input type="checkbox"/> ビクターズレポートを完成させるスケジュール調整 <input type="checkbox"/> 最終面談 <input type="checkbox"/> 評価チームの解散

さらに、そのビクターズレポートはサイトビジットから6週間以内にNASADのオフィスに提出され、NASADのオフィスはその内容の確認を行う。その確認の後、ビクターズレポートは申請機関に対して提示される。

その後、申請機関はビクターズレポートに対する意見申立てを行うオプションレスポンスを行う機会が保証されて

いる。最終的に、NASADでは、①セルフスタディレポート、②ビクターズレポート、③オプションレスポンスの3つの書類をもとに、年2回(4月と10月)に開催される判定委員会(NASAD Commission Meetings)で検証し、アクレディテーションを当該機関に対して与えるかどうかを決定する。そして、その結果が上記委員会開催後の30日以内に申請機関に対して通知される。

(2) 機関別と分野別の同時アクレディテーション受審

米国のアクレディテーションとしては、Regional Accreditation (全米6つの地区基準協会が行う大学全体の機関別アクレディテーション)、Professional Accreditation (専門分野別アクレディテーション)などがある。NASADでは、機関別と専門分野別のアクレディテーションを同時に受審することを希望する機関がある場合、表13のようなジョイント・エバリュエーション (Joint Evaluations (以下「JE」))という手法を定めている。

NASADは、そのような機関に対して、地区基準協会と連絡を取り合いながら、共同の評価者チームを構成し、共同のサイトビジットを実施するが、評価結果は地区基準協会とNASADが別々に出すというJEという制度を設けている。この手続きの詳細は5.3で述べる。

なお、NASADには、機関別アクレディテーション団体と専門分野別アクレディテーション団体によるJEのみならず、専門分野別アクレディテーション団体であるNASAD、NASD、NASM、NAST 同士のJEを行う手続きも定められている⁹⁾。

表 13 NASAD と地区基準協会の JE の手続き

JE の決定	JEを受審するか否かの選択の権限は申請機関にある
セルフスタディレポート	両団体 (NASADと地区基準協会) に対する1つのセルフスタディレポートを申請機関が作成 但し必要に応じて、補足資料を各団体が同機関に要求
評価者チーム	1つの評価者チームを両団体が構成 両団体が最低2名をそれぞれ選出 (その中の1名が主査)
サイトビジット	1回の実地調査スケジュールで実施 両団体のスタッフでスケジュール調整
結果の決定	各団体が独自にアクレディテーションの決定を下す
評価手数料	両団体がそれぞれ申請機関に対して評価手数料を請求

出所) NASAD (2017-2018) p. 245~248 をもとに筆者作成

5. NASAD のアクレディテーションシステムの特徴

上記で述べたNASADのアクレディテーションシステムについて、わが国の認証評価制度改善への示唆を導出する

観点から重要であると考えられる特色について、①評価基準、②評価プロセス、③評価手法の3点から考察する。

5.1. 評価基準の特色

NASAD の評価基準において、特徴的であると考えられるのは、NASAD において、コンピテンシー・ベースの観点の基準が盛り込まれている点と共に、専門的側面の他に、教養的側面も加味しながら基準が設定されている点である¹⁰。その代表的事例として、NASAD の学士課程の専攻別評価基準の中から「デジタルメディア」と、NASAD の修士課程の専攻別評価基準の中から「スタジオ & アート」を詳しくみてみる。その基準の内容を示したのが表 14 と表 15 である¹¹。

両表の「必要不可欠なコンピテンシ」に記載されているように、NASAD の専攻別基準において、学士課程では a~i の 9 つの観点から、修士課程では 4 つの観点から、学生が卒業時までどのようなコンピテンシーを身につけることができるかという具体的で測定可能な基準が明確に設定されている。アート&デザイン分野の専攻別基準の中にこのような知識、理解、能力の内容をここまで具体的に詳述したものは、NASAD の基準において他にない。この基準をわが国の基準と比較すると、大学基準協会「デジタルコンテンツ系専門職大学院基準」の「基準 2 (3) 教育成

果」では「同大学院は、学位の授与状況、修了者の進路状況等を踏まえ、固有の目的に即して教育成果を評価し、その結果を教育内容・方法の改善に活用することが必要である」という表現に留まり、大学基準協会の上記基準は NASAD の当該基準で定められているような具体的な記述までには至っていないことがわかる。

また、NASAD の専攻別基準では、表 14 の「1. カリキュラム構造」の中で、教育プログラム全体に占めるべき専門科目の具体的割合を示しその必要性を謳いながらも、「一般教育科目が 25~35%を占めること」とあるように定量基準を設定した上で、「2. 一般教育科目の推奨」の基準を設け、ライティングを始めとした具体的な一般教育科目を推奨し、幅広い教養を身につけることを必須としている。この分野でこうした基準を設定している評価機関も NASAD をおいて他にない。この基準を NASAD が設定する理由は、表 14 の 2 に示されているように、デジタルメディアに関する学習には、多分野からの知識を引き出すこと、いわば多くの「知の引き出し」が必要だからである。この基準を設定することにより、NASAD は教育機関に対して、一般教養と専門知識のバランスを備えた人材を育成することを求めている。NASAD はこのように専門・一般教育科目の両者に定量基準を設け、両科目に配慮した具体的な基準を設定している。

表 14 NASAD におけるデジタルメディア専攻の評価基準 (学士課程)

1. カリキュラム構造	<p>a. 基準:カリキュラムの構造、内容、単位修得時間は、以下に示すような、デジタルメディア専攻の学位を保持する者に期待される知識、技能、能力を学生が発揮できるようにするものであること。</p> <p>b. ガイドライン:この目的を達成するためのカリキュラムは、通常、次のガイドラインに準拠する。デジタルメディアの科目が、教育プログラム全体の 25~35%を占めること。専攻の目標と目的に応じて、アート、デザイン、映画/ビデオの様々な側面をサポートするコースが 20~30%を占めること。アート、デザイン、映画/ビデオの歴史と理論に関する科目が 10~15%を占めること。一般教育科目が 25~35%を占めること。アート&デザインとビジュアルアート/デザインの歴史の科目又はそれをサポートするコースは、通常、カリキュラム全体の少なくとも 65%を占めること。</p>
2. 一般教育科目の推奨	<p>デジタルメディアに関する学習は、本質的に総合的なものであり、しばしば共同作業を伴うものである。それは多くの分野からコンテンツ、リソース、及びメソッドを引き出すものである。一般教育科目の要件は、学位プログラムの全体的な目標及び目的と直接的に関連している必要がある。ライティング、映画研究、文化研究、技術史、コミュニケーション理論、認知心理学、ヒューマンファクター、コンピュータサイエンス、ビジネスなどの分野の科目が推奨される。</p>
3. 必要不可欠なコンピテンシ	<p>a. デジタル技術の視覚的、空間的、音、動き、インタラクティブ、及び時間的要素/特徴に関連する概念とデジタルメディアベースの作品の制作及び創出における使用原則に関する知識。</p> <p>b. タイムベース又はインタラクティブメディアにおいて、コンテンツを編成するためのナラティブ及びその他の情報/言語構造の理解。技術的、社会的、文化的システムに対応する方法でコンテンツ構造を整理し表現する能力。</p> <p>c. 様々な技術 (ハードウェアとソフトウェア) の特性と機能の理解。それらの具体的な表現力、機能性、戦略的アプリケーションへの適合性の理解。より大きな文脈とシステムの中でのそれらの位置と個人や社会への影響の理解。</p> <p>d. デジタルベースのアートやデザイン戦略 (ストーリーボード、コンセプトマッピング、シナリオやペルソナの使用など) の開発と調整のプロセスに関する知識。</p> <p>e. 様々な状況 (例えば、身体的、認知的、文化的、社会的、政治的、経済的など) において、技術的に媒介されるコミュニケーション、目的、環境に応じて、人間の相互作用の関連する側面を分析し合成する能力。</p> <p>f. ユーザ/聴衆を中心としたデジタルベースのコミュニケーション、オブジェクト、環境に関して、有用であり、利用可能であり、効果的であり、望ましいものを理解する力。</p> <p>g. 映画、ビデオ、テクノロジー、デジタルアートやデザインなどの分野に関する歴史、理論、批評に関する知識。</p> <p>h. チームで働き、様々な分野の人々とのコラボレーションを組織化する能力。</p> <p>i. プロフェッショナルな品質のデジタルメディア制作における創造と開発に上記の能力を適用する能力。</p>

出所) NASAD (2017-2018) p. 102~104 をもとに筆者作成

表 15 NASAD におけるスタジオアート&デザイン専攻の評価基準 (修士課程)

1. カリキュラム構造	スタジオアート又はデザイン分野で少なくとも 30 セメスター時間又は 45 クォーター時間の集中的で高度な学習が必要。学習の少なくとも 50%は、スタジオ又はデザイン分野で選択される必要があり、また、関連する高度なアート/デザインヒストリーコースや、特定のスタジオ分野及び個々の研究プログラムに適したその他のアート分野の研究によってサポートされる必要がある。
2. 必要不可欠なコンピテンス	専門分野の課題や問題に対して、文脈的、技術的な観点を持って対処できる能力。 科目やプロジェクトについての芸術的・知的・専門的なレベルでの知識と能力。 独立かつ自主的に作業し、効果的・芸術的・知的判断や、専門分野における専門的意思決定を行う高度な能力。 専門分野の専門家としての能力を同僚や教員の前で実証する能力。

出所) NASAD (2017-2018) p. 138 をもとに筆者作成

表 16 NASAD の選択可能なセルフスタディレポートのフォーマット

	フォーマット A	フォーマット B	フォーマット C
①資格	正会員への加盟を申請する全機関 正会員への更新を申請する機関	賛助会員後に正会員へ加盟申請する機関 正会員への加盟をはじめて申請する機関	5 年以上の正会員の資格を持つ機関
②フォーマットの構造	特定の教育プログラムが NASAD の評価基準を満たしているかどうかを焦点を当てた構造	アート&デザイン単位の教育プログラムの計画や運営面に焦点を当てた構造 将来への課題・機会や改善計画の優先順位を示すサマリーを記載することが必要	アート&デザイン単位の教育プログラムの将来性に焦点を当てた構造 将来の発展に向けた使命・目的のサマリーを記載することが必要
③適している機関	特定の教育プログラムにおける NASAD の評価基準への充足度を確認したい機関	戦略的計画の策定を重視する機関 様々な教育プログラム間の深度や関係性を重視する機関	同一の専門分野・領域において 1 つ以上の学位プログラムを持っている機関 教育プログラムの将来性を重視する機関
④適していない機関	改善志向、戦略的計画、将来の発展方策、教育プログラムの総合的な検証に重きを置く機関	アート&デザイン単位全体よりも特定の教育プログラムに重きを置く機関	個々の特定の教育プログラムレビューを重視する機関 戦略的なプログラムレビューや戦略的分析の手続きを既に持っている機関

出所) NASAD (2016) p. 15~19 をもとに筆者作成

5.2. 評価プロセスの特色

NASAD の評価プロセスにおいて、特徴的であると考えられるのは、NASAD が申請機関の特性に応じて選択可能な 3 つのセルフスタディレポートのフォーマットを提供している点である。NASAD では、表 16 に示すような 3 つのフォーマットが申請機関に対して用意されている。このフォーマットの違いは、大きく分けて、①フォーマットを使用することができる資格、②どのような点に焦点が当てられているかを示したフォーマットの構造、③フォーマットに適した機関、④フォーマットに適していない機関の 4 点に整理することができる。

各機関は、自らの特性に鑑みて、適しているフォーマットを選択することができ、また、そのフォーマットに応じてセルフスタディレポートを作成することができる。

NASAD では、こうした選択可能なフォーマットを申請機関に提供することで、各機関の多様性に対応すると共に、各機関の個性化を促進させている¹²⁾。

5.3. 評価手法の特色

NASAD の評価手法として、特徴的であると考えられる

のは、NASAD と地区基準協会との JE に関する取組みである。この JE の手続きは、以下のとおりである。

まず JE を受審するか否かは、申請機関の状況や目的に応じて、申請機関自身が決めることができる。次にその受審を行うことを決定した機関は、機関別と専門分野別のアクレディテーション受審に適用する 1 つのセルフスタディレポートを作成する。さらに、サイトビジットに関しては、通常、地区基準協会が日程調整を行い、NASAD と連絡を取りながら、共同の評価者のチーム構成やそのチームの主査を調整する。サイトビジットの評価者は、通常、地区基準協会と NASAD から最低 2 名ずつ選出され、その中の 1 名が主査となる。最後に、判定結果については、各団体が独自にアクレディテーションの決定を下す。なお、評価手数料については、両団体がそれぞれ申請機関に対して請求する。

こうした JE の取組みによって、申請機関にとっては、機関別と専門分野別アクレディテーションを別々に受審するよりも、1 つのセルフスタディレポートの作成と 1 回のサイトビジットでそれぞれ済むことから、作業負担の軽減につながる。NASAD と地区基準協会は、このような手法で効率的に評価を行っている。

6. 結論—わが国の認証評価制度改善への示唆—

これまで述べた NASAD のアクレディテーションシステムの特色から、わが国の認証評価制度改善への示唆を以下で導出し結論にかえたい。

6.1. 評価基準の特色の考察から得られる示唆

(1) コンピテンシー・ベース基準設定の必要性

近年わが国の高等教育において、「学修成果の可視化」が着目され、例えば、中央教育審議会大学分科会将来構想部会（2017）では「学修成果の可視化と情報公開」が重要な課題として審議されている。そして、その可視化を行うために「学生が何を知り、何ができるのか」といった観点から、各大学は具体的で測定可能な学修成果を測定することが求められている。また、認証評価機関においても、例えば、大学基準協会において「学修成果を軸とした評価の実施」が検討課題として挙げられ、諸外国の例も参考にしながら、専門分野別の評価基準の中に具体的な学修成果を設定することを検討していくことが重要であると指摘されている（大学基準協会, 2017a, p. 8）。

上記の重要性に鑑み、今後アート&デザイン系高等教育機関において「学修成果の可視化」を促進していくためには、NASAD で設定されているような「学生が目標とするコンピテンシーを身に着けたこと」を示す具体的で測定可能なコンピテンシー・ベースの観点の基準をわが国の認証評価基準の中に盛り込んで策定していく必要があると考える。

(2) 教養的側面を加味した基準設定の必要性

日本の学士課程は専門教育と教養教育とが柔軟に複合した教育課程として開設されていることから、今後、芸術学及びデザイン学の分野別質保証を推進していくためには、専門教育のみならず教養教育にも配慮した具体的な評価基準を設定する必要があると考える。

その際に参考になると考えられるのが、本稿で分析を行った NASAD の評価基準である。NASAD は、5.1 で考察したように専門的側面の他に、教養的側面も考慮に入れた具体的な評価基準を示しているところに特色を持つことから、その内容を参考にしながら、今後芸術学及びデザイン学における教養的側面を加味した分野別の認証評価基準をわが国で策定していく必要があると考える。

6.2. 評価プロセスの特色の考察から得られる示唆

わが国では、1998 年の大学審議会答申「21 世紀の大学像と今後の改革方策について—競争的環境の中で個性が輝く大学—」以来、個性輝く大学の出現が求められ、また、認証評価制度においても、中央教育審議会大学教育部会

などで、大学の機能別分化の進展に対応した評価のあり方に関する改革の方向性の案が示されている。

NASAD は、5.2 で考察したように、各機関の特性に応じた選択可能なセルフスタディ方式を複数用意することで、各機関の多様性に対応すると共に、各機関の個性化を促進させている。今後わが国において、アート&デザイン系高等教育機関の機能別分化をより一層促進させる観点から、NASAD におけるこの取組みは参考になると考えられる。従って、今後わが国において、NASAD で実施されているような各機関の特性に応じた選択可能な自己点検・評価方式を、認証評価機関が複数用意することを検討していく必要があると考える。

6.3. 評価手法の特色の考察から得られる示唆

わが国の機関別と専門分野別の認証評価の効率化については、評価受審大学の作業負担軽減を図るために、中央教育審議会大学分科会（2016）や中央教育審議会大学分科会大学院部会専門職大学院 WG（2016）などで審議がなされ、機関別と専門分野別の認証評価を 1 本化して受審することを可能にする方向性についての検討が進んでいる。また、認証評価機関からも、認証評価の効果的・効率的な運用を図る観点から、大学基準協会（2017b, 2018）において、機関別と専門分野別認証評価を一体的に実施するための具体的な提案がなされている。

こうした中で、NASAD における JE の取組みは、5.3 で考察したように、機関別と専門分野別のアクレディテーションを一体的に実施することで、評価受審大学の作業負担軽減と効率的な評価の実施という両者を実現させている。今後、わが国における機関別と専門分野別の認証評価の効率化を図る観点から、両者を同時に実施する上記 JE の手法を、わが国の認証評価制度との法的整合性を考慮の上、わが国でも採用するべきであると考えられる。

本稿で考察した NASAD のアクレディテーションシステムの特色は、このような点をわが国の認証評価制度改善に向けて示唆しているのではないかと考える。

注

¹ 日本学術会議の以下のウェブサイトには、2018 年 8 月時点で、既に経営学から医学分野に至るまで、31 の学問分野の参照基準が策定・公表されている。

<http://www.scj.go.jp/ja/member/iinkai/daigakuhosyo/daigakuhosyo.html> (2018 年 8 月 25 日)

² 旺文社の調べによれば、2018 年 4 月時点で、日本の大学の芸術学その他（CG など含む）分野の学科数は 174、デザイン学分野の学科数は 139 ある。

<http://eic.obunsha.co.jp/resource/viewpoint-pdf/201807.pdf>
(2018年10月22日)

³ NASAD「WELCOME TO NASAD」のHPを参照。
<https://nasad.arts-accredit.org/> (2018年8月25日)

⁴ NASAD「HISTORY」のHPを参照して記述。<https://nasad.arts-accredit.org/about/history/> (2018年8月25日)

⁵ NASAD「APPLICATION FEES」のHPを参照。<https://nasad.arts-accredit.org/accreditation/general-information/dues-fees/> (2018年8月25日)

⁶ NASAD「ACCREDITED INSTITUTIONAL MEMBERSHIP DUES」のHPを参照。なお、フルタイム相当の学生数に応じた会費の内訳は、200名ごとの5つの区分で、以下のURLに記載されている。<https://nasad.arts-accredit.org/accreditation/general-information/dues-fees/> (2018年8月25日)

⁷ ただし、この評価基準の階層には、階層図が複雑になることを防ぐため、短期大学の学位プログラム (Two-year degree-granting programs)、アート／デザイン専攻におけるリベラルアーツ学位プログラム (Liberal arts degree programs with a major in art or in design studies)、アート／デザイン分野における非学位プログラム (Non-degree-granting program in art/design) を除いている。

⁸ NASAD (2017-2018) p. 11に基づき記述。

⁹ この手続きは、NASAD (2017-2018) p. 239-244に記載。

¹⁰ NASADの評価基準の特色は、NASAD (2014)に記載され、その中でコンピテンシー・ベースの観点の基準が盛り込まれている点はその特色として指摘されている。

¹¹ デジタルメディアの専攻別基準には「4. 必要不可欠な機会と経験」が掲載されているが、紙幅の都合上割愛した。その詳細は、NASAD (2017-2018) p. 104を参照。

¹² NASDには、この他に、NASADのエグゼクティブ・ディレクターと協議の上、申請機関が独自にセルフスタディのフォーマットを作成することができるカスタムフォーマット (Custom Formats) もある。その詳細はNASAD (2016) p. 19の「Custom Formats」を参照。

引用文献

中央教育審議会大学分科会 (2016). 「認証評価の充実に向けて (審議まとめ)」。 (http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkoku/_icsFiles/afiedfile/2016/03/25/1368868_01.pdf) (2017年8月20日)

中央教育審議会大学分科会大学院部会専門職大学院WG (2016). 「専門職大学院を中核とした高度専門職業人養成機能の充実・強化方策について」 (http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/

[toushin/_icsFiles/afiedfile/2017/06/12/1377151_02.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkoku/_icsFiles/afiedfile/2017/06/12/1377151_02.pdf)) (2017年8月20日)

中央教育審議会大学分科会将来構想部会 (2017). 「今後の高等教育の将来像の提示に向けた論点整理」 (http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkoku/_icsFiles/afiedfile/2018/01/16/1400115_01.pdf) (2018年7月15日)

大学基準協会 (2015). 『内部質保証ハンドブック』。

大学基準協会 (2017a). 『評価における国際通用性の課題と方向性』。 (https://www.juaa.or.jp/images/publication/pdf/other/working_group.pdf) (2018年7月15日)

大学基準協会 (2017b). 『今後の専門職大学院と認証評価のあり方について』 (https://www.juaa.or.jp/images/publication/pdf/other/approach_evaluation.pdf) (2018年7月15日)

大学基準協会 (2018). 『認証評価制度の今後の在り方について』 (https://www.juaa.or.jp/images/publication/pdf/other/outline_ideal_way20180326.pdf) (2018年7月15日)

未来工学研究所 (2009). 『大学の質保証及び学位プログラムの在り方に関する調査研究報告書』 (<http://www.ifeng.or.jp/wordpress/wp-content/uploads/2012/02/kenkyuuhoukoku2009.pdf>) (2018年7月15日)

NASAD (2014). *Characteristics of NASAD Standards*. (<https://nasad.arts-accredit.org/wp-content/uploads/sites/3/2016/03/Characteristics-of-NASAD-Standards.pdf>) (2018年8月21日)

NASAD (2016). *Procedures for Institutions*. (<https://nasad.arts-accredit.org/wp-content/uploads/sites/3/2016/03/PI-NASAD2016.pdf>) (2018年8月21日)

NASAD (2017). *NASAD Information Brochure*. (<https://nasad.arts-accredit.org/wp-content/uploads/sites/3/2015/11/NASAD-INFORMATION.pdf>) (2018年8月21日)

NASAD (2017-2018). *NASAD HANDBOOK 2017-18*. (<https://nasad.arts-accredit.org/wp-content/uploads/sites/3/2017/12/AD-Handbook-2017-2018.pdf>) (2018年8月13日)

日本高等教育評価機構 (2007). 『認証評価に関する調査研究』 98~135. (http://www.jiheer.or.jp/publication/pdf/research_report/h18_monka_jigyuu.pdf) (2018年7月15日)

高橋光輝 (2011). 『コンテンツ教育の誕生と未来』 株式会社ボーンデジタル, 68-98.

山口 豪 (2017). 『デジタルコンテンツ分野における認証
評価の現状と課題』 コンテンツ教育学会 2017 年度春
季研究大会研究発表資料 (<https://researchmap.jp/>

?action=cv_download_main&upload_id=157890)
(2018 年 8 月 25 日)

Research Notes

Characteristics of the Accreditation System in the National Association of Schools of Art and Design: Implications for Improving the Certified Evaluation and Accreditation System in Japan

Go Yamaguchi

(Undergraduate Academic Affairs, Digital Hollywood University)

The purpose of this study is to consider the characteristics of the accreditation system in the National Association of Schools of Art and Design (NASAD) so that each university related to the field of art and design education in Japan will be able to assure and improve the quality of its educational and research activities.

First, an outline of the recent developments relevant to the field of art and design education at Japanese universities is provided, and second, previous research related to the NASAD accreditation system is surveyed in this paper.

Third, the features of the NASAD accreditation system are analyzed, focusing on the following three topics: competency based standards, selectable self-study, and joint evaluations of the NASAD.

Finally, based on the above considerations, future directions for improving the Certified Evaluation and Accreditation System in Japan are proposed.

Keywords: National Association of Schools of Art and Design (NASAD), Competency Based Standards, Selectable Self-Study, Joint Evaluations, Professional Accreditation